

予算要求資料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 国民スポーツ大会選手団派遣事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 競技スポーツ課 競技スポーツ係 電話番号：058-272-1111(内2646)

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 93,364 千円 (前年度予算額： 88,719 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	88,719	0	0	0	0	0	0	0	88,719
要求額	93,364	0	0	0	0	0	0	0	93,364
決定額	93,364	0	0	0	0	0	0	0	93,364

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

①本大会

・令和6年度に開催された佐賀国スポでは、天皇杯10位、皇后杯9位、総得点1317.5点を獲得した。

(参考) 令和4年度栃木国体 天皇杯13位、皇后杯7位、総得点1321点
令和5年度鹿児島特別国体 天皇杯13位、皇后杯9位、総得点1350点

・「ぎふ清流国体」にむけて取り組んできた選手強化の成果を一過性のものにする事なく、今後も継続して維持発展させていくことが必要である。

②東海ブロック大会

・ぎふ清流国体において県の競技力は飛躍的に向上し、予選会を突破する競技種目が増加した。現在もその数を維持している。

・ぎふ清流国体で向上した競技力を今後も維持していくために選手派遣を支援する。

(2) 事業内容

①本大会

国民スポーツ大会への選手団派遣に対する補助

・開催場所 青森県他

・開催時期 夏季大会：令和8年10月10日～10月20日

冬季大会：令和9年1月～2月

②東海ブロック大会

・国民スポーツ大会東海ブロック大会に派遣される選手団の派遣費に対し補助する。

・本大会の東海ブロック大会は、岐阜・三重・愛知・静岡の東海4県で各県持ち回りの開催となっており、当大会にて種目ごとに勝ち抜いた県が本大会への出場権を得る。

・令和8年度は岐阜県で開催される。

(3) 県負担・補助率の考え方

本大会 交通費、運搬料等：実費 宿泊費：協定額
東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	93,364	本大会 交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額 東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2
合計	93,364	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「長期構想」との関係

人口減少と高齢化の進展が見込まれる中で、誰もが地域を支える貴重な人材として、生涯、健康で活躍できるよう、子どもの頃から高齢化に至る生涯を通じた健康づくりを支援する。

(2) 事業主体及びその妥当性

(公財) 岐阜県スポーツ協会

岐阜県スポーツ協会は県内の競技団体を統括する組織であり、国民スポーツ大会においても県選手団を統括する組織である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	国民スポーツ大会選手団派遣事業費補助金
補助事業者(団体)	国民スポーツ大会及び東海ブロック大会出場競技団体 (理由) 大会出場選手を選定し、選手の派遣等実務を担う団体である。
補助事業の概要	(目的) 国内最大のスポーツイベントである国民スポーツ大会に選手団を派遣することで、広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する。 (内容) 国民スポーツ大会本大会及び東海ブロック大会への選手団派遣に対する補助。
補助率・補助単価等	定額 (内容) ・本大会 交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額 ・東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2 (理由) 本大会の予選である東海ブロック大会では交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2を補助する。 本大会では交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額
補助効果	広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する。
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画終期

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>毎年度開催される国スポにおいて、国スポ出場に係る費用の一部を補助することで、各競技団体の財務負担を軽減し、十分な競技力向上を図り、多くの競技種目で勝ち抜き、より多数の選手を国スポへ派遣し、県の全体的な競技力向上に寄与する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R元)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①国民スポーツ大会 本大会派遣人数	490人	559人	580人	580人	580人	102.2%
②東海ブロック 大会 派遣人数	773人	778人	800人	800人	800人	105.6%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	70,857	77,600	74,178

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	令和4年度栃木国体では、天皇杯13位、皇后杯7位、総得点1321点を獲得した。
	指標① 目標：580人 実績：537人 達成率：92.5%
令和5年度	令和5年度鹿児島特別国体では、天皇杯13位、皇后杯9位、総得点1350点を獲得した。
	指標① 目標：580人 実績：585人 達成率：100.8%
令和6年度	令和6年度佐賀国スポでは、天皇杯10位、皇后杯9位、総得点1317.5点を獲得した。
	指標① 目標：580人 実績：559人 達成率：96.3%

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県として今後のスポーツ振興を図っていくため、本大会及び東海ブロック大会に選手団を派遣し競技力の向上を行う必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	令和6年度佐賀国スポでは、天皇杯10位、皇后杯9位を獲得した。佐賀国スポにかかる予選会については、21競技54種目の競技が予選突破し、県の競技力がぎふ清流国体以降も維持できている。今後も引き続き予選会、本大会に選手を派遣し選手団を支援する。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	近年、本大会は県に係る参加料・昼食代、東海ブロック大会派遣に係る昼食代については、補助を見直し経費作減を図った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふ清流国体を一過性のものとすることなく、今後も継続して競技力の強化に取り組む必要がある。そのため、予選会を通じて国スポへ選手団を派遣し、これまで構築されてきた強化の基盤の上で、さらなる競技力の向上を図る。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 国民スポーツ大会は今後も継続して行われる、国内最大のスポーツイベントである。より多くの選手団を派遣することで、広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する。
--